

第17回日本ボランティア学習学会第3分科会



第3分科会は、進行役の高田研さん(都留文科大学:協会理事)を中心に、今年度のアレクディクソン賞を受賞された次世代のためにがんばろ会代表の松浦ゆかりさん、さらに協会代表の興梶寛さんも加わって、15人の高校生を中心とした参加者との間で意見交換やグループワークが行われました。

まず、松浦ゆかりさんから、2001年に発足した「次世代のためにがんばろ会」の活動について発表がありました。松浦さんは、Think Globally, Act Locally をモットーに、次世代の子供達が健康で安全な生活が送れるようにという願いを込めて、「牡蠣殻を使用したダム湖生活排水浄化大作戦」、「川の健康診断と環境学習会(出前授業)」、「浜辺の大掃除大会」、「子どもごみパトロール隊」、「リユース食器の無料貸出し」等々、多彩な環境活動を、小・中・高校生や市民に広く呼びかけ、行政・大学・企業等と一体となって、継続して活動してきていることを報告しました。官・学・民・産の協力体制のもと、今や大きな広がりを見せているがんばろ会の活動について、参加者との間で活発な質疑応答が行われました。

このあと参加者は、三つのグループに分かれ、自己紹介を行った後、がんばろ会の環境活動について感じたことを率直に述べ合いました。次いで「ボランティア活動を成功させるためには」というテーマでその要因を分析し、グループごとにまとめるワークを行いました。ワークは、各自が自由に考えをポストイットに記入しそれを分類。グループごとに3つに「文章化」。合計9つの「文章」を一枚の模造紙に貼って発表しました。

この発表について、松浦さんからは、活動成功のキーワードは“共栄、有言実行、出会った人々との関係を大切にすること”と考えていることが話されました。また、興梶さんは、“日本には縁結びの神様がなくなっている。コーディネーターとは例えて言うと縁結びの神様になること。その神様とは歌や踊りが大好きでネアカであること、そのためにはおいしいものやお酒も必要。”などと話し、ワークを盛り上げました。

高校生らしい意欲と活気に満ちた分科会となりました。

(高田 研)

